

教育長室だより

第 12 号

2019.5.20

10連休の間に立夏も過ぎ、夏らしさが増してまいりました。毎年、ゴールデンウィークを過ぎると通常の学校生活が始まります。暑くなるまでの間、たいへん良い季節でもあります。一方で、新しい学年の環境に慣れてくるとともに、いじめや不登校などのさまざまな問題も現れてくる時期とも言われます。

“終わりなき日常”の始まりです

このところ季節によらず感染症が流行ったりもします。子どもさんの心身の健康に目配りをお願いしたいと思います。



【子育ての本】

いわゆる“育児書”と言われるものが書店にもものすごい数、並んでいます。近年だんだん増えているように見えます。子どもとの接し方を助言するものや勉強ができる子にするアドバイスが書かれたもの、栄養学関係のもの…本当にたくさん並んでいて、どれを読めば良いのか困ります。それにこんなにたくさん知識が必要なのかと悩んでしまう人も居るそうです。

そんなにいろいろな知識がなければ子どもを育てられないということはないでしょうし、逆にたくさん知識を持っていけばうまく子どもが育つというものでもないはずです。



ここまで書いてきたことと相反することを次に述べます。本から得られることも大いにあるという話です。

最近とみに幼児教育に関心が出てきて、いくつかの本を読む中で目から鱗という本に出会いました。3冊紹介してみます。

- ①『AI vs 教科書が読めない子どもたち』新井紀子
- ②『子どもが幸せになることば』田中茂樹
- ③『子どもの脳を傷つける親たち』友田明美

①の本はすでにテレビなどでも紹介されて大きな話題になっているので、ご存じの方もおられるかと思います。人工知能、AI とは何かということや、AI が広まる時代に生きるための教育について書かれています。著者の新井紀子氏は数学者ですが、東京大学合格をめざす AI「東ロボ君」をつくるプロジェクトのリーダーを務めた人です。AI が得意とすることと不得意なことから、今の中高生の読解力に危機感を持ち、これからの世の中に必要な人の能力について力説しています。今後はコンピュータにできないことを磨くことが教育に求められていくかもしれないと思える本でした。

②の本は“世界レベルの育児書”がたくさん出ていると言われる日本で、それらの趣旨とは全く違う価値観で書かれた育児書です。“子育てをもっと楽に”というのが一番のねらいになっています。みんながこの本の通りにしなければならぬとは思いませんし、できないと思いますが、子育ての大切な何かが伝わってきます。子どもが「笑っていただけること」、「根拠のない自信」をもてることなどがキーワードになっています。

著者田中茂樹氏は京都大学医学部を卒業して奈良県の診療所の医師をしています。現在50歳代前半で、これまで数千件の子育て相談に関わってきており、自身も同じく医師の奥さんと共に4人の子育てを経験しています。

プロフィールに徳島県育ちとありました。

③の本は子どもの脳の研究の新しい成果にもとづいた内容で、虐待をはじめ子どもの脳の発達に深刻な影響を与えている親や大人たちの言動への重大な警告になっています。

脳の研究の新しい成果の中で衝撃的なのは、虐待などによって子どもの脳が物理的に変形したり傷ついたりすることがわかったことです。ひどい虐待ではなくても、子どもの前で親同士が激しいけんかをするとか兄弟を比べて叱責する、大きな声で罵倒するなど通常ありがちなことでも脳の一部に実際に変化が起きているというのです。この脳の変化は、すぐに子どもの言動に影響が表れなくても、何年もたってから表れることがあるというのです。このような子どもへ悪影響を与える扱いはマルトリートメントという言葉でまとめられています。マルトリートメントは実はすごく怖いことだということです。

著者は福井大学の子どものこころの発達研究センターの先生です。

これらの本も洪水のように世に出されたもののうちの一部であり、ほかにも有意義な本はあると思います。いずれにしても、これらの本を読んでみて、同じように読んだ人と話をしてみると、自分の家の子育てを客観的に考えることができます。そして良かった点や考えてみるべき点が見えてくると思います。

○

明治の文豪、芥川龍之介の残した箴言に次のような言葉があります。

「人生はマッチ箱のようなものだ。大事に扱うのはばかばかしいが大事に扱わないと危険である。」

少し言い換えてみます。「子育てはマッチ箱のようなものだ。大切に扱うのはめんどうだが、大切に扱わないと大変なことになる。」

子どもは強いもので少々のことで成長が損なわれることはありません。けれども毎日毎日すごいスピードで変化しているその脳や人格に、できれば良い影響を与えたいものだと思いますし、悪い影響は少しでも少なくしたいものだと思います。子どもの頃の良い経験は長い人生の強い強い味方になります。

上の3冊などもこのような意味でぜひ一度手に取られることをおすすめします。①、②は町の図書館にあります。③も県立図書館から取り寄せできます。